欧州特許庁拡大審判部，ブロッコリ事件及びトマト事件について審決

2015年4月1日

JETRO デュッセルドルフ事務所

欧州特許庁（EPO）の拡大審判部は、3月25日、「ブロッコリ事件Ⅱ」（G2/12）及び「トマト事件Ⅱ」（G2/13）の審決において、プロダクト・バイ・プロセス・クレームの方法の特徴が、植物の生産の本質的に生物学的な方法であっても、特許の対象から除外されない旨、判示した。

「植物または動物の生産の本質的に生物学的な方法」は、欧州特許条約（EPC）第53条(b)において特許の対象から除外されている。これを踏まえ、「ブロッコリ事件Ⅰ」及び「トマト事件Ⅰ」については、技術審判部から付託された質問について、交配と選別による植物の生産方法は、植物の全体の遺伝子の交配やそれに続く植物の選別の段階の実施を可能にしたり補助したりするのに役立つ技術的な段階を単に包含するというだけでは、植物の生産の本質的に生物学的な方法であって、特許の対象から除外されるとの審決（G2/07及びG1/08）が、2010年12月に拡大審判部から下されていた。これに対し、特許権者は、クレームを植物の生産の本質的に生物学的な方法で得られた物の形式（いわゆるプロダクト・バイ・プロセス・クレーム）に補正する意向を示したことから、技術審判部から拡大審判部に以下の質問が付託されていた。

1. EPC 第53条(b)の、植物の生産の本質的に生物学的な方法の除外は、植物、又は植物の部分のような植物材料に向けられた、物のクレームの特許性について、否定的な効果を有するか？
2. 特に、
 - (a) 植物品種以外の、植物又は植物材料に向けられた、プロダクト・バイ・プロセス・クレームは、その方法の特徴が、植物の生産の本質的に生物学的な方法を定義する場合、特許性があるか？
 - (b) 植物品種以外の、植物又は植物材料に向けられたクレームは、クレームされた主題を生成するために出願日に利用可能だった唯一の方法が、特許出願に開示された、植物の生産の本質的に生物学的な方法である場合であっても、特許性があるか？
3. 物のクレームによって与えられる保護が、EPC 第53条(b)のもとでそれ自体除外される、植物の生産の本質的に生物学的な方法による、クレームされた物の生産を包含することは、質問1及び2の文脈において、関連性があるか？
4. 植物品種以外の、植物又は植物材料に向けられたクレームが、EPC 第53条(b)のもとで

除外される植物の生産の本質的に生物学的な方法による、クレームされた物の生産を包含するという理由で、特許性が無いと考えられる場合、除外される方法を「除く (disclaiming)」ことによって、そのような生産のための保護を放棄することは可能か？

拡大審判部は、EPC 第 53 条(b)で特許性の例外として規定される「植物の生産の本質的に生物学的な方法」を、物のカテゴリーに拡大して解釈する余地はないとして、上記質問に対して以下のとおり判示した。

1. EPC 第 53 条(b)の、植物の生産の本質的に生物学的な方法の除外は、植物、又は植物の部分のような植物材料に向けられた、物のクレームの特許性について、否定的な効果を有しない。

2. (a) 植物品種以外の、植物又は植物材料に向けられた、プロダクト・バイ・プロセス・クレームの方法の特徴が、植物の生産の本質的に生物学的な方法を定義するという事実によって、当該クレームが認められないということにはならない。

(b) クレームされた主題を生成するために出願日に利用可能だった唯一の方法が、特許出願に開示された、植物の生産の本質的に生物学的な方法であるという事実によって、植物品種以外の、植物又は植物材料に向けられたクレームが認められないということにはならない。

3. この状況の下、物のクレームによって与えられる保護が、EPC 第 53 条(b)のもとでそれ自体除外される、植物の生産の本質的に生物学的な方法による、クレームされた物の生産を包含することは、関連性がない。

4. 回答なし。

<参考>

EPC 第 53 条 特許性の例外

欧州特許は、次のものについては、付与されない。

(a) 略

(b) 植物及び動物の品種または植物または動物の生産の本質的に生物学的な方法。ただし、この規定は、微生物学的方法または微生物学的方法による生産物については、適用しない。

(c) 略

— 「ブロッコリ事件 II」(G2/12) 及び「トマト事件 II」(G2/13) の審決は、以下参照 —
[G 0002/12 Decision of the Enlarged Board of Appeal of 25 March 2015](#)
[G 0002/13 Decision of the Enlarged Board of Appeal of 25 March 2015](#)

ー ブロッコリ事件Ⅱ（G2/07）およびトマト事件Ⅱ（G1/08）に関する欧州知的財産権ニュースは、以下参照 ー

[欧州特許庁、本質的に生物学的な方法で生産された植物の発明に関する審査手続を中止（2013年10月7日）（PDF）](#)

[EPO 拡大審判部、「ブロッコリ事件」に関する付託質問について意見募集を開始（2013年8月8日）（PDF）](#)

[EPO 技術審判部、「ブロッコリ事件」において再度、拡大審判部へ質問を付託（2013年7月11日）（PDF）](#)

ー ブロッコリ事件Ⅰ（G2/07）およびトマト事件Ⅰ（G1/08）に関する EPO 拡大審判部の審決についての欧州知的財産権ニュースは、以下参照 ー

[EPO 拡大審判部、交配を含む植物の生産方法に対して特許性を認めない審決（2010年12月11日）（PDF）](#)

（以上）